



脳と認知機能の障害

子犬の分離不安への対処法



子犬がドアをひっかく、過度に泣く、吠える、家の中で排泄する、家族が外出するたびに破壊的になるなどの症状がある場合、子犬に分離不安症がある可能性があります。

なぜ、分離不安症になる子犬とならない子犬がいるのか、その理由は完全には解明されていません。原因が何であれ、これらの行動は悪意があるのではなく、不安の表れであることを認識することが重要です。子犬に罰を与えても、分離不安は解消されません。子犬が一人でいることに徐々に慣れるようにすることが、最善の方法です。

分離不安の予防

子犬が一人で留守番する際、快適に過ごせるとよいでしょう。時間をかけて、次のような簡単な手順を踏むことで、子犬をトレーニングすることができます。可能なら、子犬を飼い始めた時点で始めてください。

1. 子犬のための一日のスケジュールを作ります。

家族もこのスケジュールに従うようにしましょう。子犬は日課が好きです。

2. 子犬にクレートトレーニングをする。

クレートは、子犬が留守番しているときに落ち着いて過ごせるようにするための素晴らしい方法です。

子犬は最初、あなたがいる間、短時間だけクレートに入るようにします。子犬におやつや適切なおもちゃを与え、クレートがポジティブなものに関連付けられるようにします。徐々にクレートにいる時間を長くします。静かな行動には、穏やかに褒めてあげましょう。

その後、子犬がクレートに一人でいられるようにします。最初は数分間から始めます。徐々に一人でいられる時間を長くします。クレートに入れる前に、子犬に排泄の機会を与えてください。

ほとんどの子犬は、生涯にわたってクレートに入れる必要はありませんが、焦らないようにしましょう。1歳半くらい、またはそれ以上になるまで、家庭内で誰も見ていない状態でクレートの外に出しておくことができない子犬もいます。

(次のページに続く)

3. 外出時や帰宅時に特別なことをしない。

子犬が落ち着いて行動できるように、出かける直前は子犬に注意を与えないようにしてください。留守の間、音楽やテレビの音声を流しておく、子犬に興味を持たせたり、気を紛らわせたりすることができます。

帰宅したら、子犬をクレートから静かに出してあげましょう。興奮して行動しないようにしましょう。

4. なるべく家族の誰かが家にいるようにする。

クレートに入れる時間は、生後1ヵ月につき1時間以内にするのがひとつの目安です。パピーウォーカーや近所の人に頼んで、みんなが仕事や学校に行っている間、子犬を昼間に休ませることも考えてみましょう。

5. 獣医に相談する。

子犬の分離不安については、獣医師が最も確かな相談相手です。獣医師は、独自の菌株 ビフィドバクテリウム・ロングム NCC3001 (BL999) を含むプロバイオティクス、 α -カソゼピン (牛乳由来)、L-テアニン (お茶由来) など、落ち着いた行動を促すサプリメントを推奨することがあります。Purina の研究によると、心配性の犬にビフィドバクテリウム・ロングム菌株を補給したところ、不安な行動が減少したとのことです。

ペットによっては、ベストやシャツなどの服を着せて、軽度の圧力を加え続けることが有効な場合もあります (赤ちゃんにおくるみを着せると落ち着くのに似ています)。ペットの徴候が深刻な場合は、獣医が動物行動学の専門家や治療法を推めることがあります。

これらのヒントを実践することにより、子犬の分離不安が軽減され、ペットが独りで快適に留守番できるようになる可能性があります。

Purina Institute は、ペットがより長く、より健康的に生きるための、科学に基づく顧客に寄り添った情報を提供することで、ペットの健康に関する議論の最前線に栄養を位置付けることを目指しています。